

蒲刈中学校区小中一貫教育だより



令和4年3月発行

蒲刈中学校区学校教育目標

未来を拓く児童生徒の育成

寒さが緩みはじめ、本格的な春の訪れを感じる今日この頃、保護者及び地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、蒲刈小学校・蒲刈中学校の教育活動に、ご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本中学校区の児童・生徒は、自然豊かで人の営みが穏やかな環境の中、日々落ち着いて学習に取り組んでいます。しかしながら、私たちを取り巻く社会は、変化が非常に激しく、多様で複雑な価値観が存在します。現在の児童・生徒が社会人になる頃には、社会構造や雇用環境は大きく変化し、職業の在り方も現在とは様変わりする、と言われていています。

「未来を拓く児童生徒の育成」を学校教育目標に掲げる蒲刈小・中学校は、このような未来をたくましく生き、自らの力で未来を拓くことができる児童生徒の育成を目指しています。変化が激しい未来だからこそ、社会人になってからも「自ら学び続ける力」が求められています。

「自ら学び続ける力」とは、自分から情報を集め、自分で考え、仲間とともに問題に取り組み、世の中に新しい価値を生み出していくことができる力であり、そのような力が身に付くよう日々教育活動を行っています。そして、この力を身に付けるためには、自信をもって積極的に様々なことにチャレンジする経験が必要です。そのため、

積極的にチャレンジする → **成果が出る** → **自信がつく** → **更にチャレンジする** → ……
というサイクルを目指しています。

蒲刈小・中学校では、来年度も「未来を拓く児童生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、様々な教育活動を推進してまいります。



令和3年4月26日（月） 小中合同遠足 於：大津泊庭園にて

1年間を振り返って

2月18日(金)、今年度最後の小中合同研修会を行いました。
合同研修会は定期的に行われ、小中で実施する教育活動について振り返り、成果と課題を明確にし、次の活動につないでいます。

今年度は「伸ばす学力部会」と「育む心部会」の2つの部会が、それぞれの研究内容を実践し、次のように成果と課題を整理しました。



①「伸ばす学力部会」について

研究内容	具体的な取組	成果(○)と課題(●)
学力向上のための研究授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 「教えて考えさせる授業」をベースに、ペアやグループでの学び合いを仕組み、自分の言葉で説明させる場を設定した。 研究授業や授業交流週間などを設けて研修を実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを説明できる力が身に付いてきて、発表することも多くなった。 ○指導案や教材などについて教員間で協議でき、授業のねらいに迫ることができた。 ●学力の定着については、成果も見られるが課題の克服が必要である。
NIEによる読解カトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> 説明文や物語文の練習問題などを家庭学習として取り組んだ。 「ワークシート通信」「新聞スピーチ」「読売新聞の読解プリント」などを定期的実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読み取り、問いに対する答え方が分かるようになった。 ○記事の内容をもとにして、自分の考えも加えて発表することができた。 ●発達段階によって、取組の方法などに工夫が必要である。
予習やICT機器を利用した家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し、予習や課題の提出を実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> ○予習だけでなく、復習にも効果が見られた。 ○多くの教科でタブレットを活用した家庭学習が定着し始めている。 ●更に効果的にタブレットを活用する方法を模索する必要がある。

②「育む心部会」について

研究内容	具体的な取組	成果(○)と課題(●)
とびしま探訪、とびしま検定の活用	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で、とびしま検定を実施した。 とびしま探訪を使って、地域の特産品を調べるなど活用した。など 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に地域を訪問し、理解を深めたり、地域のことについて考えたりすることができた。 ○地域を題材にして、探究学習を実施することができた。 ●学年に応じた活用方法を考える必要がある。
未来を拓く100の出会い	<ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲で、ゲストティーチャーを招聘し話を聞き、自分の将来について考える機会を設けた。など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーの話について、しっかり振り返ることができた。 ○様々な生き方に触れることで、自分の生き方について学ぶことができた。 ●であいシートに記録する時間を十分にとれないことがあった。
自己肯定感を向上させる合同行事	<ul style="list-style-type: none"> 合同遠足、合同運動会、合同発表会などを実施し、小学校と中学校が感想の交流をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が互いに認め合うことで、達成感を味わうことができた。 ○他者から褒められたり、認められたりして、自己肯定感を高めることができた。 ●自己肯定感について、更に理解を深め、今後の活動をより効果的にする必要がある。

呉市は、中学校区の小・中学校で「目指す児童生徒像」を共有し、9年間の見通しの中で様々な教育活動を組織的・計画的に行う小中一貫教育を基盤としています。本中学校区においても、この考えを踏まえ、今年度の成果と課題を整理し、来年度の活動につないでまいります。

今後ともご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。